

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（重点・新規項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領・観点別評価（完成年度）の円滑な実施 2 生徒1人1台学習用端末（完成年度）の円滑な利活用 3 「第2期 京都府教育振興プラン」「府立高校の在り方ビジョン」「魅力ある府立高校づくり推進基本計画」「スクール・ミッション」等に基づく学校経営及び「スクール・ポリシー」の趣旨を踏まえた新しい学校づくりの構築 4 学校運営協議会の取組も踏まえた地域創生に資する人材育成 5 研修旅行の成功 6 仮設舎室を含む寮の適正な運営及び下宿との連携 </div>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家庭との連携及び教育相談会議やケース会議等の実施による個に応じた支援で、寮（仮設舎室）、下宿を含めた生徒の生活を安定させている。 2 進路について、地元の水産・海洋関連産業に20名超が就いた他、海上保安学校等の公務員も含め、ほとんどが学習内容を深化・発展させる分野に進んだ。また、国公立大学31年連続合格（難関国公立大学にも複数が一般合格）を始め、スポーツ推薦や水産・海洋関連分野以外を含めて、幅広い分野の大変質の高い進路実現を果たすことができた。 3 実践的な教育活動により、本校の持ち味を生かした研究活動に取り組むとともに、教育長表彰に57%該当、マリンマイスター顕彰対象生徒も卒業生の7割が該当（全国2,500人のうち上位11名に、本校から8名（特別表彰））するなど、レベルの高い資格を取得する生徒数が持続し、大会やコンテスト等への出場・入賞でも実績を積んでいる。 4 ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実を努めた。高校新・ジュニア新に留まらず、日本新記録樹立を達成した部活動もある。複数の部活動で、府・近畿・全国大会及び国際大会出場や入賞の実績を重ねている。 5 生徒会活動並びに図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅を広げている。 6 宮津商工会議所との連携協定によるキャリア教育や、学校運営協議会による地域の魅力を感じさせる教育活動が継続できた。 7 地域魅力理解、感染症対策、学習用端末購入に伴う負担増を軽減する、新しいスタイルの研修旅行が実現できた。 8 キャリアプランニング・サポート（小、中学校への学習・体験等提供）並びにコラム推進プログラム等に、府北部を中心とする多くの児童・生徒が参加し、本校教育内容への動機付け並びに水産・海洋分野への理解を深めてもらうことができた。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 完成年度となる新学習指導要領・観点別評価及び生徒1人1台学習用端末活用の充実 2 生徒、保護者等と教職員との信頼関係構築の一層の推進及び中学生、地域の方等から信頼され、憧れの対象となる人権感覚を備えた教員像の確立 3 地域連携の一層の推進と研究（探究）活動等の充実により、地域活性化意識を醸成する教育活動展開及び進路実績の継承 4 中学生及びその保護者等から求められる学校像の構築と、目的意識の高い志願者数確保に繋がる迅速かつ効果的な教育活動の発信及び広報活動の実施 5 業務の整理や効率化による諸取組の適切な実施及び働き方改革の推進 6 ボランティア活動や学校公開等、コロナ禍以前の特色ある取組の適切な実施や更新 7 下宿・家庭・寮（仮設舎室を含む）での好ましい生活の支援 8 「スクール・ミッション」や地域ニーズに応え、中期経営計画を具現化する新しい教育内容の構築 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 普通・専門教育の充実と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒1人1台学習用端末の活用を基にした、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 (2) 授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を支援する。 (3) 地域人材を活用したキャリア教育や外部機関等とのつながりを充実させることで、府北部活性化のために何ができるようになるかを展望させ、地域創生に結びつける。 (4) 思考力・判断力・表現力の醸成を基に、校内外の連携や課題の共有に努めながら、活動の質をより向上させる。 (5) 読書活動・図書館活動の充実を図る。 2 基本的な生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導提要の改訂を踏まえ、「生徒心得」等生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 (2) 道徳性や規範意識を大切に、人権感覚を前提にしなが、状況に応じた行動（ふるまい）ができる人間性を育む。 (3) 成年年齢引き下げを踏まえ、社会人としてより一層責任と自覚ある行動を促す。 3 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。 (2) 日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育む。また、主体的な行動を促し公共心を育成する。 (3) 互いの個性や多様性を認め合い、生かしながら共に学ぶ仲間づくりを進める。 4 安心・安全・衛生管理の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習（実習船含む）に常に緊張感を持って臨むとともに、点検・確認や円滑な情報伝達及び共有を怠らず、安全第一を徹底する。 (2) 生活全般において法やルールを守り、他者を思いやる気持ちを行動につなげる能力や態度を育成する。 (3) 感染症対策で得られた対策や対応の手法等を継続する。 5 広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 <p>専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする迅速かつ積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。</p> 6 職場改革の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員それぞれが職務にやり甲斐を感じ、Well-beingの実現が図れるよう職場環境の改善を図る。 (2) DXの推進等を通じた働き方改革により、生徒と向き合える時間を確保するとともに、学校職員としての資質向上に努める。 (3) 職員がお互いを慮り合いストレスの軽減に務めるとともに、業務の共有・協働・分担、分掌等の枠にこだわらないOJT、スキルの伝承を推進する。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	個に応じた指導の推進と指導状況の共有等を通じ、教育活動の充実を図る。	・学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進捗状況を点検・共有等することにより、高い達成状況を実現する。		
	本校の魅力を積極的に発信するとともに、志願者数の増大を図る。	・特色ある教育活動を推進し、専門教育の内容をさらに充実させるとともに、志願者数を増加させ、定員を充足させる。また、教育内容についての広報をさらに充実させる。		
	職場環境の改善を図るため、働き方改革を推進する。	・行事及び業務の焦点化や精選、分掌業務の平準化や協働等により、時間外勤務時間の短縮を図る。		
総務企画部	専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、PRする。	・「ホームページ・広報資料・学校説明会」を軸に、受け手（保護者、中学生等）を意識した内容の精選やICT化等を図りながら、本校の魅力を効果的に発信する。		
	系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。	・系統的な人権教育を推進するために、次の4項目を掲げる。 ①計画的な人権学習(5回)・人権講演会(4回)の実施 ②人権だよりの発行(7回) ③文化委員会の人権啓発の取組 ④道徳教育取組まとめ		
教務部	カリキュラム・マネジメントの推進により教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図る。	・新学習指導要領に基づき、より適切な学習評価に留意した年間学習指導計画や指導シラバスを編成し、各科目の円滑な授業進行を目指す。		
	新学習指導要領に基づき、より適切な観点別評価の実施と教科指導力の向上を図る。	・公開、研究授業への参加や、観点別評価等の新学習指導要領への円滑な実施を目的とした研修を実施し、教員の指導力と生徒の学力向上を目指す。 ①公開、研究授業への参加1人当たり3回以上。 ②観点別評価に関する資料等の情報提供及びメンション4回以上。		
	端末機器等のICT活用を推進し、社会のデジタル化への対応力を高める。	・教職員のICT機器の活用を推進することで、生徒の授業理解を促し、生徒の学力向上に繋げる。 ①ICT機器活用に関わる参集型研修やメンション8回以上。 ②学習時間伸長に向けた学習時間調査を学年部や学科・コース、部活動等で推進し、入力率70%以上を目指す。		
	読書活動を通してことばの力を高め、豊かな思考力を醸成する。	・読書活動を推進して生徒の健全な成長を促すことで、学校生活をより充実したものとする。 ①50%以上の授業科目で図書室活用による探究活動を推進する。 ②司書主催で、教職員に対する働きかけ（教職員向け図書館だより・図書館研修等）を5回以上行う。 ③図書室で1冊以上本を借りた生徒の割合85%以上。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導部	学校生活の中での基本的なルールや規律を守る意識の醸成を図る	・ 8時25分までの登校を促し、基本的な部分から生徒指導を見直していく。 ・ 頭髪・服装指導を強化するとともに、指導の意義についても理解させる。		
	ICT機器利用指導を確立する。	・ 1人1台端末の完成年度に伴い、ICT機器のよりよい活用方法について、ルールを明示し、指導していく。		
進路指導部	海洋プロジェクトを基軸とした、3年間を見通した進路指導を実現させる。	・ 進路指導アンケートでの満足度の向上に努める。		
	学習用端末を活用したキャリア教育を推進する。	・ 学習用端末を活用したキャリア教育の講義や研修の実施回数を増やす。		
保健部	学校生活を「安心・安全」に送ることができるよう継続的な感染予防を定着させる。	・ 各分掌と協力し学校生活の中での継続的な感染症予防対策の定着を図る。 ・ 検温や健康観察、出欠席など生徒の健康状態の把握を効率的に行い、持続可能な予防対策の定着を図る。		
	施設点検及び清掃時の点検を定期的に行い、改善が必要な箇所の早期発見に努め、学校の衛生環境の充実を図る。	・ 事務部と連携し、定期的な校内点検を行う。（月1回を目標とする）		
	支援を必要とする生徒に対して、情報のとりまとめを行い関係分掌と連携した支援に努める。	・ 迅速なケース会議、教育相談会議の開催に努力し、学年部、SC、SSWと連携し個別の支援が必要な生徒の支援内容の共有化を図る。		
事務部	安心・安全管理の徹底を進める。	・ 保健部やみずなぎ等他の分掌と連携し適切な学校教育環境の維持に努める。		
	広報活動の支援を行う。	・ 積極的な広報に努めるため、次の事項について重点的に取り組む。 ①就学支援の他、学校環境の変化などをホームページで発信する。 ②公金管理が伴う校内外実習を積極的に支援する。 ③広報に係る提案に積極的に取り組む。		
みずなぎ	全ての実習の安全・安心を徹底する。	・ 実習時の集合操練、救急コール携帯を徹底する。		
	小・中学生体験乗船の増大を目指す。	・ 組織・運営と打ち合せ体験乗船を増大させる。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
寮・下宿運営部	定員増加に対応する寮運営の調整を行う。	・寮の定員増加等に伴う、寮運営の改善及び確立を目指す。		
	C-learningを活用した寮・下宿運営を効率化させる。	・C-learning活用により、業務の効率化を目指す。		
	寮生・下宿生の効果的なICT活用の推進を図る。	・寮生・下宿生の、ICT機器の効果的な活用を推進する。		
第1学年部	基本的な生活習慣や学習に向かう姿勢を確立させる。	・学年の生徒状況や課題に応じ、学力伸長の取組を実施する。		
	学校生活を通して、社会人として必要な資質やコミュニケーション力を身に付けさせる。	・部活動に加入させ、社会で必要な力を付ける。		
	保護者等との連携を密にし、信頼関係の構築に努める。	・家庭との連絡を密にする。		
第2学年部	教科・分掌等と連携を図り、学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。	・学力向上の取組を行い、成績上位者数の増加を目指す。		
	希望進路実現に向け、保護者と連携を図り、丁寧な指導を心掛ける。	・2年学年末までに希望進路の決定100%を目指す。		
第3学年部	希望進路を実現させる。	・関係分掌、学科・コース等と連携しながら、希望進路を実現させる。		
	学習習慣を定着させ、成績の維持・向上を目指す。	・進路決定後も、授業、家庭学習等、学習に向かう姿勢を維持・向上させる。		
BYOD運営部	一人一台端末導入に係るハード面、ソフト面の環境整備を行い、ICTを円滑に利用できる学校づくりに取り組む。	・端末活用ガイドブックの改善等、生徒が端末を安心・安全に利活用できる環境整備に取り組む。		
		・MDMの廃止に伴い、端末の活用方法がさらに広がるため、授業や実習における活用方法等を生徒へ示す。		
	ICTの利点と危険性を理解し、教職員が教育の質の向上に利活用できる知識と技能の向上に取り組む。	・BYOD運営部の定期会議で、教育の質の向上や働き方改革に役立つ研修を行い、教職員のICT利活用に関する資質と能力を計画的に向上させる。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
海洋科学科	コロナ禍以前の教育活動を更新するとともに、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させ、授業・実習に緊張感を持って臨む態度や姿勢を育成する。	・授業・実習を大切にし、学習習慣を身に付けさせる。		
	高校卒業後の進路を見据えた自己の在り方生き方、ライフプラン等を描かせる。	・キャリア教育や外部機関等とのつながりを充実させる。		
航海船舶コース	専門性の高い資格・検定に挑戦することにより、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせるとともに、専門性の涵養に努める。	・ICT活用や補習等を推進し、自ら学ぶ姿勢を育成する。 (資格毎数値目標) コース生徒の取得人数 海技士(三級2名、四級5名)、第二級海上特殊無線技士10名 小型船舶操縦士(一級6名、二級9名)、漁業技術検定10名		
海洋技術コース	生徒の専門性の向上に努める。 関連進路先への就職・進学者を増やす。	・海洋技術コースに関連する資格取得・検定合格を通じて、生徒の専門的な知識や技術の習得を図る。また、定期的に進路に関する面談を行い、海洋技術コースに関連する進路指導に繋げる。		
	外部との連携強化を進める。 外部に向けた研究活動の発表を行う。	・丹後半島沿岸海域の環境保全及び地域振興を目標とした活動を展開する。また、研究活動の成果をさまざまな場面で発表し、海洋技術コースの研究活動を発信する。		
	教員自身の専門性の向上に努める。 教員間での知識・技術の伝承を行う。	・外部講習等の活用により、教員の専門性向上を図るとともに、コース内研修による知識・技術等の伝達及び向上に努める。		
栽培環境コース	学習した専門的な知識と技術を定着させ、社会で活躍できる資質と能力を育成する。	・増養殖に関わる資格取得を推進し、知識・技術の習得に繋げる。 (小型船舶1級・2級、栽培検定1級・2級、漁業技術検定、潜水士等)		
	個に応じた指導を行い、希望進路を実現させる。	・コース面談を行い、希望進路や生徒個々の状況を把握し、進路実現や課題解決に必要な指導や助言を実施する。		
	先進的な増養殖技術や、ICTを活用したスマート水産業について学習させ、次世代を担うために必要な知識と技術を習得させる。	・外部講師を招いた学習や、プログラミング及びICT機器を用いた増養殖技術について学習する。		
食品経済コース	高校生レストランの活性化を目指し、生徒の自己有用感を育む。	・コンテスト・イベント等に参加し、自己有用感、主体性を育む。		
	関係機関との連携を推進するとともに、地域活性化につなげる。	・地元の低利用資源を活用した高校生レストランやこども食堂を実施する。		
	コース内での研修を十分に行い、生徒の希望進路実現を目指す。	・定期的に研修会を実施し、知識・技能の伝承を行う。		
		・京都府内関連企業への就職を推進する。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	基礎学力の定着と、国語に対する関心・意欲を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定の合格率を高めるため、模擬試験の実施や課題プリントの配布を行うことで、受検者の学習意欲を高めたり、学習方法の指導を行ったりする。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の充実を図るため、以下の取組を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①図書館オリエンテーションの実施 ②夏課題・春課題での読書レポート ③図書館を活用した授業展開（探究活動） ④読書アンケートの実施 ⑤探究活動につながる書籍やウェブ上の情報活用についての指導 ⑥文章の引用についての指導 ⑦週末課題での読書指導の実践 		
		<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の一体化を目指し、下記の取組を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①評価シートを学期の初め毎に準備し、教科内で共通認識を深める。 ②生徒の自己評価と学習指導を振り返り、授業改善に役立てる。 ③生徒が自己調整を行えるよう、振り返りシートを活用する。 ④パフォーマンスに関わる評価をループリック表を用いて行う。 		
地歴・公民科	地歴・公民科に対する関心・意欲・態度を醸成することで、国際社会で生きる日本人としての意識を涵養し、確かな学力を身に付けさせる。そのために、思考力・判断力・表現力を高める指導力を向上させ、主体的・対話的な学びにつながる授業改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ニュース時事能力検定準2級・3級における合格率を向上させる。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 定期的な小テストの実施やきめ細かな提出物などを通じて、学力定着に取り組み、考査における平均点向上を図る。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 実践的な発表授業を実践し、生徒自身の自発性や考える力を高める。 		
数学科	<p>生徒一人ひとりに合わせた指導と学習形態を確立することで基礎学力の定着に努め、思考力・判断力・表現力を伸ばすとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下の4項目の達成を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> ①成績不認定生徒0名 ②家庭学習を習慣化させるための指導法の確立 ③観点別評価の年次進行に備えて、教科内での情報の共有 ④数学検定の合格率の向上 		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
理科	理科の授業を通じて論理的な思考力・判断力・表現力の醸成に努める。そのために、BYODに対応したICT教材の推進や観点別評価に対応した授業づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒すべてが、個人端末のiPadを持つため、以下の取組を行う。 <ol style="list-style-type: none"> iPadを活用した課題を提出させる。 プリントなどの教材をC-ラーニングに置き、各自が復習できる環境をつくるとともに、取組具合を点検する。 実験や観察を通して、なぜそうなるのかを考えたり、意見交換したりする場面を設定し、コミュニケーション能力や論理的思考力を育てる。 教科書の二次元コードから見ることができる実験動画等を活用し、学習内容の理解につなげる。また、それを課題とし、動画を見て答えるプリントへの取組と提出による主体的な学びの機会を与え、その評価を行う。 振り返りプリント、授業プリント、授業ノート、問題練習ノートなど、定期考査以外の評価材料を増やし、観点別評価の材料を集め、評価に生かす。 		
保健体育科	<p>保健体育科会議を積極的に実施し、保健体育科教員の資質向上や同僚性の推進に努める。</p> <p>保健体育科の取組をホームページに掲載し、本校の教育活動の発信に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育科会議、打ち合わせの開催数を増やし、情報共有を密にする。 ホームページ掲載回数を増加させる。(昨年度11回) 		
芸術科(美術)	生徒1人1人が作品と向き合う中で、高い意識をもって制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に務める。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に制作活動に取り組ませ、作品を期限内に完成、提出させる。 		
家庭科	生活的自立の能力を形成するために、自ら考え判断できる力と、他者と共存できる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入状況を確認し、学習内容の定着を把握する。 		
英語科	生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育み、基礎力の定着を図るとともに、4技能5領域を意識した学習指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション・スピーキングテストなど、パフォーマンス課題を課すことにより、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 4技能5領域の英語力をバランス良く高めるため、実用英語技能検定の受検を促し、合格者数の増加を図る。 		